

# 安全・信頼性検討作業班 ご説明資料

2012年5月23日

UQコミュニケーションズ株式会社

## (1) 停電対策等の災害対策に関する情報の公表について

BWAは、携帯電話と異なり、音声サービスを提供していないことや、バッテリーの配備等についても同様ではないことから、同じ移動体サービスであっても位置づけが異なるものと考えております。

災害対策については、事業者の自主的な判断で公表することを検討してまいります。

なお、災害時の影響取りまとめにあたっては、音声・データ等、提供するサービスや設備規律が異なることについてご配慮いただきたいと考えております。

## (2) 中継伝送路の切断等への対策の公表について

弊社が使用する中継伝送路については、他の電気通信事業者より提供を受けております。特に東京・大阪のセンター局舎間の中継伝送路については、異ルートを確保いただくなど信頼性の確保に努めております。

発災時には中継伝送路提供事業者と速やかに連携し、早期のサービス復旧に努めてまいります。

## (3) ネットワークの設計容量に関する基本的考え方、通信規制、重要通信の優先的取扱いに係る手法等に関する情報の公表について

設計の基本的な考え方等について、災害対策等を検討する際に個別のご要望に応じてご説明することは可能と考えております。

## (4) 障害や輻輳等が発生した場合における、発生状況等の情報の公表及び輻輳低減のための周知等について

障害発生時の公表については、現状HP上での周知や必要に応じてプレスリリースを行っておりますが、大規模な障害については音声応答等様々な手段を用いるなど、より一層の充実化について検討しております。

## (5) 応急復旧の優先順位について

大規模災害時に復旧優先順位をつける際には、利用者への影響が大きい設備を優先することとなりますが、計画の公表については今後の検討課題と考えております。

### (1)スマートフォン普及の現状と今後の予想

### (2)アプリの制御信号増加への対策

MVNOにおいて数十万台規模のWiMAX搭載スマートフォンが販売されており、今後とも増加する見込みと認識しております。MVNOから必要に応じて需要情報の提供を受け、設備計画に反映しております。

アプリの制御信号については、常時接続しているWiMAX上でのデータトラフィックの一部と考えられることから、トラフィック動向を注視し、設備増強等必要な対策を行ってまいります。

### (3)冗長機能及び復旧手順について

弊社では、商用NWと同一構成の検証環境を構築しており、検証環境において、設備単体の過負荷試験を行うと共に、システム全体としての過負荷試験も実施可能であり、特定設備の処理能力の上限を超える負荷をかけた場合でも、他の設備に影響がでないことや、切替が適切に行えることを確認しております。

### (4)設備の設計・設定・配備について

### (5)ソフトウェア不具合の防止について

新設備・ソフトウェア導入時には、検証環境において安定稼働を確認することとし、必要に応じて過負荷試験も実施しております。

商用NWへの導入に際しては、まず利用者影響が少ないエリアで先行導入し、一定期間安定稼働を確認した上で、順次導入範囲を拡大することとしております。

### (7)工事の際の事故防止について

技術部門において、工事・作業等で生じたヒヤリ・ハット事例を共有し、工事・作業時の留意事項として反映しております。

工事・作業に起因する事故が発生した場合は、運用監視部署より障害発生連絡が行われ、影響度に応じて重大事故対応体制が速やかに立ち上がる手順となっております。

他事業者様のヒヤリ・ハット事例の共有については、弊社工事・作業の改善に資するものと考えております。